

みんなで語る会報告書

- 開催日時：平成28年11月10日（木）（19時00分～20時30分）
- 開催場所：川尻ふれあい交流館
- 参加者数：【市民】28人、【市職員】市長ほか10人、【総計】39人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 地方創生について
- 4 意見交換
- 5 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

この語る会の参加者が少ないことに対し、市長はどのように考えるか。市に対する関心がない。私の家は広報のスピーカーから500mも離れていないのに、放送を一度も聞いたことがない。危機管理課に電話をして、係長が家に来てくれたこともある。この前は、危機管理課長とも話をした。課長の話では、12月から個別のスピーカーを備えるという話であった。議会だよりの8月号に記載された中村議員の質問内容によると、個別受信機まで予算に入っているのに、このスピーカーを1万円近くで買いなさいと言うのはおかしい。

<市長>

指摘のあった広報、周知の仕方、このような会に参加する手立ては非常に不十分であり、スピーカーも十分ではないという意見は重く受け止めたい。

【市民】

市役所がこういう会合をもつのに、川尻公民館の人間がこれだけしか来ないことをどう感じるか。市に対する関心がない。市は勝手にするし、議員は右に倣えだという話も出ている。異論があれば、市民がどんどん役所に電話をするように言う議員もいる。そうしなければ、市はやりたい放題だと言う。

<市長>

行政へ関心がないということに対し、どのようにすべきか御意見をお聞きしたい。その前に、無線デジタルの放送について。

<総務部長>

防災行政無線については、国の方がデジタルの周波数が有効であろうということで、指宿も全域をデジタル化した。聞こえにくい地域については、デジタルの個別受信機を市の方で設置した。今までは家の中に個別受信機があったという話もあったので、行政無線が入ると自動的に無線が流れる防災ラジオの販売について12月28日までに申込みをするように皆さんの家庭に通知した。

【市民】

アナログでしている地域もあるのだから、アナログ用の個別受信機を配布した方がお金も使わずにいいのではないか。議員の話では、役所は予算を使わないといけないからそういうことをすると聞いている。

<市長>

厳しい御意見、謙虚に受け止めたい。ただ、予算を使わないといけないからというのは違う。指宿のデジタル無線の設置を含めた危機管理は南薩地域では一番早く、難聴地域を調べて、まさかの

避難のときはどうするかを考えている。どのような聞こえ方をするのか、私自身も実際に調べてみたい。

【市民】

先日のレジャーセンターのプール修繕に対し感謝する。

台風の際に、隣家から品物が飛んできて被害を受けた。川尻は、開聞校区の中でも空き家が多いと思う。柱がもたずに屋根が崩れている家もある。被害を受けても泣き寝入りをしている状況にある。これを何とか解決してもらいたい。

道路に関してだが、川尻の点滅信号が設置された交差点は交通に支障がある。議員を通じて要望もしているが、早めに対応してもらいたい。

また、先日は交通に支障がある楠木の伐採について相談したところ、すぐに対応してもらったことに対して感謝する。その交差点は車が来るのが見えにくく、道路幅も狭いため行き来もしにくい。川尻は狭い道も多いので、行合は譲るような気持ちでというような文書でも出してもらえると助かる。

それと漬物工場から下りてくる道路は花壇をきれいにしているが、交通量も多く通りにくい箇所もある。三叉路には迂回の看板を立てて一方通行にすれば通行しやすくなると思う。

<市長>

川尻の今の声は大切にしなければならない。近いうちに支所長等と防災無線を含めた地域診断を緊急にやりたい。そのときには立ち会ってもらいたい。

信号の問題については、県の交通安全協会の認可事項であるので早速その声を届けたいと思う。

それと、空き家対策を今後どうしていくのか。台風の時に瓦が飛んでくるといったことは、川尻地区以外でもたくさんある。そういうのをまとめて、空き家対策の条例でもつくりたいといけなのではと思っている。

<開聞支所長>

川尻地区内の道路の状況等については、交通安全協会からも見にくさやカーブミラーの曲がり等も言われているので、逐次、図面を作ったりしながら市長や危機管理課にお願いをしているところである。新たな交通事故などを誘発するような場所については、川尻地区の皆さんと一緒に地域診断を行いながら進めていきたい。

<市長>

川尻地区は筋が多く、子どもたちの登下校の安全面からも何とかしなければならないと思っている。思いやりを考えてできるような地域づくりは、非常に大切だと思う。今後、そのようなことを含めて話し合いの場を川尻地区や公民館で、こうしたら住民も便利だから協力しようという話し合いをしなければならないのではと思う。危機管理課と総務課と支所で、早速、地域診断をしながら川尻地区の課題を解決していきたい。

【市民】

毎朝、蛭子から海岸沿いでウォーキングをしている。いつも川尻の海岸ではウミガメが産卵するが、今年は全然上がらない。海岸に生えた硬いツルが原因で、カメが穴を掘れずに産卵ができない。観光課にもお願いをしているが、もう少し海岸をきれいにすれば、またウミガメも上がってくると思う。陸の方のツルを取ってもらえればどうだろうか。そうすればニュースにも載り、観光にも役立つと思う。

それと、温泉センターの下の所に、道路工事をするときを使う鉄板が長い間置いてある。大けがをしようと思うので、何とかできないものか。

<市長>

私も見に行きたい。貴重な意見である。

【市民】

福元地区の学童保育への取組は大変いいことだと思う。しかし、指宿市の学童保育は保育園が主体になっているため、こういうことが起こっていると思う。鹿児島市等では、小さな町ごとに市が

統括して運営していると思う。指宿市では保育園に学童保育をとなっているが、保育園が小さかったり、面積上学童保育ができない実情がある。2年前から、小学校6年生までを預かるよう国から通達が来ているが、どの保育園も低学年を預かるのが精一杯でなかなか追い付いていない。できれば市の方で、安心して放課後が過ごせる学童保育所を考えてもらえないだろうか。

<市長>

私が一番、それを課題として考えている。鹿児島は児童館があったり、学校の中で放課後児童クラブなど学童保育の場があったりする。6年生までになったので、保育園に体の大きな子どもが行って対応できるのかというのが一番の課題である。それをできるだけ早く検討するよう担当課には言っている。すぐに結論は出せないが、このことは事業としてやりたいと思っている。

指宿の場合は、学童保育を保育園にお願いした。鹿児島の場合は学校・校区ごとをお願いしており成立ちが違う。学校の中ですると運動場も広くドッジボール等もでき、親も学校だと車も入れる。そういうふうに、しなければならぬと思っている。できるだけ早く、そういうことをしたい。

【市民】

5月の市政だよりに掲載されている重点項目の教育行政の中に学校の在り方という欄があり、2年間の検討結果を踏まえ、山川・開聞地域では小中一貫校の設置、指宿地域では今後の小・中学校の再編も含めよりよい学校の在り方を検討するとあるが、保護者の方々は小中一貫校の思いがアンケートの結果でも20%なかったと思う。これは決定なのか。

<教育長>

学校子どもたちが年々少なくなってきた中で、平成20年からどうしたらよいか検討してきた。平成26年、27年の2年間かけて、地域の皆さん方と学校のあり方を考える会を組織し、開聞地域、山川地域、指宿地域部会で話し合ってきた。PTAや地域代表、学校の先生といったメンバーで話し合い、2年間のまとめとして開聞と山川地域からは小中一貫校を設置してほしいというまとめを教育委員会にいただいた。今年、具体的にできるかを考える学校づくり推進委員会を設置し、今年度中に指宿市としての方向性を示せればということでも話し合いを進めている。その地域部会でアンケート調査も実施し、そのことも踏まえながら考えていく。市としての方向性・考え方が決まれば、またそれぞれの校区か地域ごとに説明を行い、一緒になって考えていく。考える会の地域部会から御意見・まとめをいただき、そのことについて検討しているところで、具体的に決まったことは今のところない。しっかり説明をして、御理解をいただく努力をしていきたい。

<市長>

今、非常に大きな課題である。地域再編と学校をどうするかということ。川尻の子たちも少なくなる。開聞中学校の生徒も少なくなる。一番の問題は、中学校は9教科あるが大きい学校は専門の先生が専門の教科を教えるが、開聞中学校の場合は全部はそろっていない。例えば、国語の先生が社会も教えたり、体育の先生や音楽の先生が何かを教えるといった複数の教科を持たざるを得ない状況である。しかも、野球などは今できない。青戸中と一緒にしてする。バレーボールができないから、どこかの中学校と同じチームになる。そうすると、子どものためにどうなのかなど。これは、市や教育委員会が主導するか考えは全くない。地域の方々が、子どもの将来の教育のためにどういう選択をするのか。先日、田代という小学校の保護者は、市に川辺小学校と一緒にしてくれという要望書を地域が出した。でないと、子どもたちがかわいそうだ。サッカーのチームもできない、体育の時間にドッジボールやチームプレーの競技もできない。であれば、川辺小学校と一緒にして、子どもたちをもう少し集団の中で育てたいという強い思いがあり、おそらく地域の声だったんだろう。では、川尻小を開聞中をどうするのか、そういうことが一番の学校教育の課題であるので皆さんの声を聞きたい。やはり学校を残した方がいいというのは、皆さんの共通の意見だと思う。ただ、子どもたちが今後どういう教育を受けて大きく未来に羽ばたくかということを考えたときにどうあるべきか。そこを今、考えているところである。さっき言ったように決定ではないので、これから地域の声を大切にしながら、どうしていくかということだろう。是非、意見をもらいたい。

<教育長>

補足をさせてもらいたい。アンケート調査で多かったか少なかったかだけではなく、今、世の中はどんどん変わってきており、子どもたちの成長も変わってきている。そこで、一番いい教育環境

をつくるにはどうすればよいかということで、小中一貫校や義務教育学校がつかれるように国の制度が変わってきた。中学校に進学するとき、小学校の勉強の仕方とくると変わる。部活動が始まり、学校の生活も変わってくる。教科担任制になり、教える速さも違う。そのようなことを考えたときに、中学校に上がった新生が生活に馴染まない、不安が多い「中1ギャップ」のために不登校の子どもたちが増えてきている。そのようなことが起きないように、9年間を通した教育計画で指導ができるような環境づくりが小・中一貫教育である。保護者や幼稚園・保育園の子どもをもっている保護者の皆さんにも、小・中一貫教育について説明をしていかなければならないと思っている。

今の子どもたちに「中1ギャップ」が起きないように、全市的に中学校の先生が小学校で授業をしてみることで、中学校に上がってくる子どもたちに適切な指導ができる。また、小学校の先生も中学校で授業をしてみることで、中学校に送り出すための指導の仕方が分かる。そのような状況で研究をしながら、どのようにすべきか話し合っているところである。

<市長>

小・中一貫教育又は学校の統廃合について、どのように考えるか。

【市民】

山川・開間で小中一貫校をすとした場合に、どこに学校ができるのかということ保護者に伝えなければ、開間小学校の周りに家を建てたり、川尻から大成小学校の近くに家を建てるともいる。人生設計をして、子どもたちが安全に学校に行けるよう学校の近くに家を建てていると思う。小学校1年生をバスに乗せて本当に行けるのかなど保護者の不安も大きいと思うので、具体案を早めに示してもらいたい。また、子どもがいる保護者は夜に集まれないので、保育園や小学校のある第2土曜日の朝などに呼び掛けてもらえると参加者も増えると思う。

<市長>

学校が小さくなるので、大成小や丹波小の近くに家を建てたいという方は結構いる。ところが、小中一貫校のように大きな学校で教育ができ、ここに家を造って学校に通えるとなると定住者が多くなる可能性もある。いろんな問題があるが、子どもの教育を考えるとどうしたらいいのか。先ほども申し上げたように、地域の皆さんがどう考えているかを大切にしないといけない。それ以上に、子どもを持つ親の考えも。また、学校で話をしたり、保育園児を持つ保護者と話をしたりする機会をつくりたい。ぜひ、意見をどんどんもらいたい。

【市民】

指宿市から委託された方々が海岸清掃を行い、集めた木等を海岸で燃やしている。それが風により洗濯物に臭いがうつったり、いろんな問題が出ている。市の指導では漂着物を燃やさないようにと、かいゑい漁協は指導を受けている。しかし行政は燃やして、その煙が地域に来るとい現状がわかっているのか。

次に、オリビンを求めて若い方々が川尻海岸によく来るが、川尻海岸はここでいいのか、オリビンはどこにあるのかと聞かれる。オリビンを探しに来る方々のことを考えれば、川尻海岸の看板設置と駐車場の確保ができればと思う。また、オリビンを今後どうしていくかも検討してもらいたい。

最後に、山川港の浚渫の話が7月頃にかいゑい漁協にもあった。長崎鼻の西側の離岸堤を造っている所の砂が流出するというので、そこに浚渫した砂を持って行って補充をしたいということで同意を求めてきた。しかし、港の砂にはほとんどヘドロが混じり、純粋な砂だけというのはないと思う。何年前に枕崎の外港を浚渫した際にも、ヘドロが混じっていたと聞いている。今度の山川のことで市の担当者に聞くと、県が窓口であるため市はあまり関知していないとのことであった。できれば市が間に入って、かいゑい漁協がなぜ同意できないと言ったのか理解をしてもらいたい。もしヘドロが混じっていれば、影響があるのはかいゑい漁協の所である。明日、かいゑい漁協に県の方が来て話合いがあるので、市の担当者にも参加してもらいたい。

<産業振興部長>

現在、山川漁港の航路筋のマイナス9メートルの浚渫工事を行っている。これは県が行っているが、その砂をどこに持って行くかという中において、長崎鼻は民地まで浸食されてきている状況で、市としては以前から土木行政の方で、県に離岸堤を造るとか保全をしてもらいたいと要請してきて

いた。そのような中、山川の浚渫の副産物である砂を長崎鼻に持って行けば、少しでも浸食のスピードが治まるのではという県の判断の下でこの事業を行っているという理解している。ただ、離岸流が長崎鼻から開聞岳の方向に流れていることも認識している。その中、県の方にヘドロが流れて来ていると議員を通じて話があったということで、南薩地域振興局に確認をしたところ、県としては水質の分析もしており有害物質は入っていないということであったので、かいぬい漁協の皆さんにもデータを示せば少しでも安心するのではないかとお願いをしている。明日、話合いがあるのであれば担当にも伝えて、漁民の方々の意見を踏まえながら間を取り持って話の中に入れていきたい。

【市民】

今の話は県の担当からも聞いており、問題はないとのことであった。ただ、航路筋のどこの場所をサンプルとして取ったか聞きたい。ヘドロがない港はまずない。私たちの地元の漁業者が実際に潜らせてもらって本当にヘドロがないとわかれば一番よいのではという解決案を持って話合いに行くので、ぜひ市も間に入ってもらい双方の漁協が納得できるよう協議に参加してもらいたい。

<産業振興部長>

山川港外港のさらに沖の離岸堤の辺りの砂を取っていると思うが、正確なポイントについては、明日の話合いの中で県から説明があると思う。現地をしっかりと確認したいというかいぬい漁協の声があれば、市の担当としても県の方にそのような場をつくってもらえないか伝えていきたい。

<市長>

オリビンや川尻海岸の看板がないのであれば、早速立てなければならぬ。持ち帰って担当課に指示したい。

<総務部長>

海岸清掃をするときに海岸の管理ということで、人が作ったものは燃やしてはいけないと指示をしている。他に木や竹、流れ着いたものを燃やして、地区民の方々に迷惑を掛けるということはある。持ち帰って、川尻地区の清掃の在り方について担当者について語りたい。

<市長>

これは、必要最小限のマナーである。ぴしゃっとさせたい。

【市民】

レジャーセンターの温泉がぬるい。係に聞いたところ、検討中とのことであった。

<産業振興部長>

恵比寿温泉は泉源が詰まるということで、おおむね 10 年おきに 6,000 万円から 7,000 万円の費用をかけて新たに掘削している。今の泉源については平成 12 年にやっており、平成 22 年度に大規模改修を行った。また、昨年の 9 月から 10 月に 600 万円ほどかけて管の詰まりの修繕を行ったが、今年の 10 月から温度が下がってきていると現場からも聞いている。調査をしたところ、恵比寿温泉は鉄を腐食するイオンが高いことがわかった。その解決には非常に難しい技術が必要であるが、冬になり外気温も寒くなってきている中、利用者の健康のことを考えると手をこまねいているわけにはいかない。利用者が寒くないような方策を温泉業者と打ち合わせているので、今しばらく様子を見ていただきたい。

<市長>

私も何回かプールに行った。確かに皆、健康のために歩いたりしている。それがあの温泉の一番の良さであろうし、健康寿命を延ばそうと元気で長生きをするための一つの核になる施設である。この恵比寿温泉は、何回も議会でも話題になった。このレジャーセンターを含めて、皆さんが喜んで使えるような施設にしなければならないという思いは同じである。今しばらくお待ちいただきたい。

もう一つは、かいもん荘跡地との絡みもある。かいもん荘跡地の利用についても、間もなく結論を出そうと思う。

【市民】

市から来た文書が 9 月 2 日付けの健康の文書と、9 月 17 日付けの税務課の文書が同封されて送られてきた。妻の文書は封が切られてポストに入っていた。担当課に電話をしたところ、そんなは

ずはないと言われた。

<市長>

もう一度、確認したい。封を切つてというのは、今は理解ができない。ぴしゃっと解決したい。